

第3期 岐阜市教育振興基本計画(素案)

(期間:平成30年度からの5年間)

参考2

・「第3期岐阜市教育振興基本計画(素案)」のスライド中、スライド右下に「関連資料」と記載してあるものがあります。当該スライドの関連情報として本資料(参考2)が対応しています。

目次

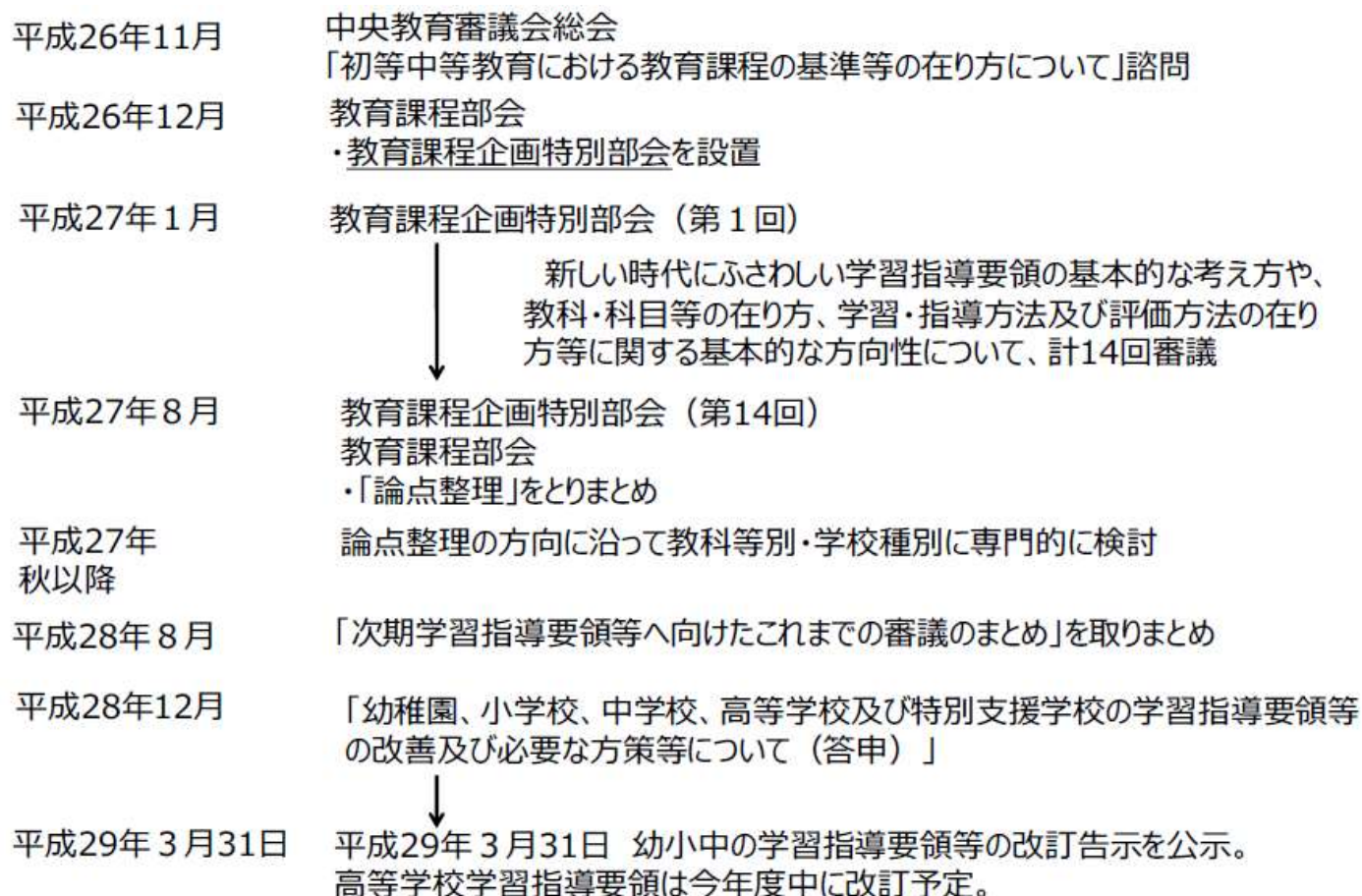
※スライド右下の番号

- ◆ 学習指導要領の改訂に向けた国の議論の経過 …… 3
- ◆ 学校教育の充実に関する政策の満足度 …… 4
- ◆ 教育環境の充実に関する政策への期待 …… 5
- ◆ 岐阜市の家庭や地域、学校の声 …… 6
- ◆ “つながり”の効果 …… 7
- ◆ 「地域の教育力」に対する認識 …… 8～10
- ◆ 家庭教育、学校教育、社会教育 …… 11
- ◆ 点検評価の状況 …… 12
- ◆ 次期学習指導要領：育成を目指す資質・能力の三つの柱 …… 13
- ◆ 小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について …… 14
- ◆ 公立小・中学校の教員の年齢構成 …… 15
- ◆ 学校現場が抱える課題の状況 …… 16

学習指導要領の改訂に向けた国の議論の経過

- ◆ 約10年ごとに改訂されてきた学習指導要領について、平成26年11月、中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問された。
- ◆ 以降、国において議論が重ねられ、文部科学大臣への答申を経て、平成29年3月に幼小中の学習指導要領等の改訂告示が公示された。

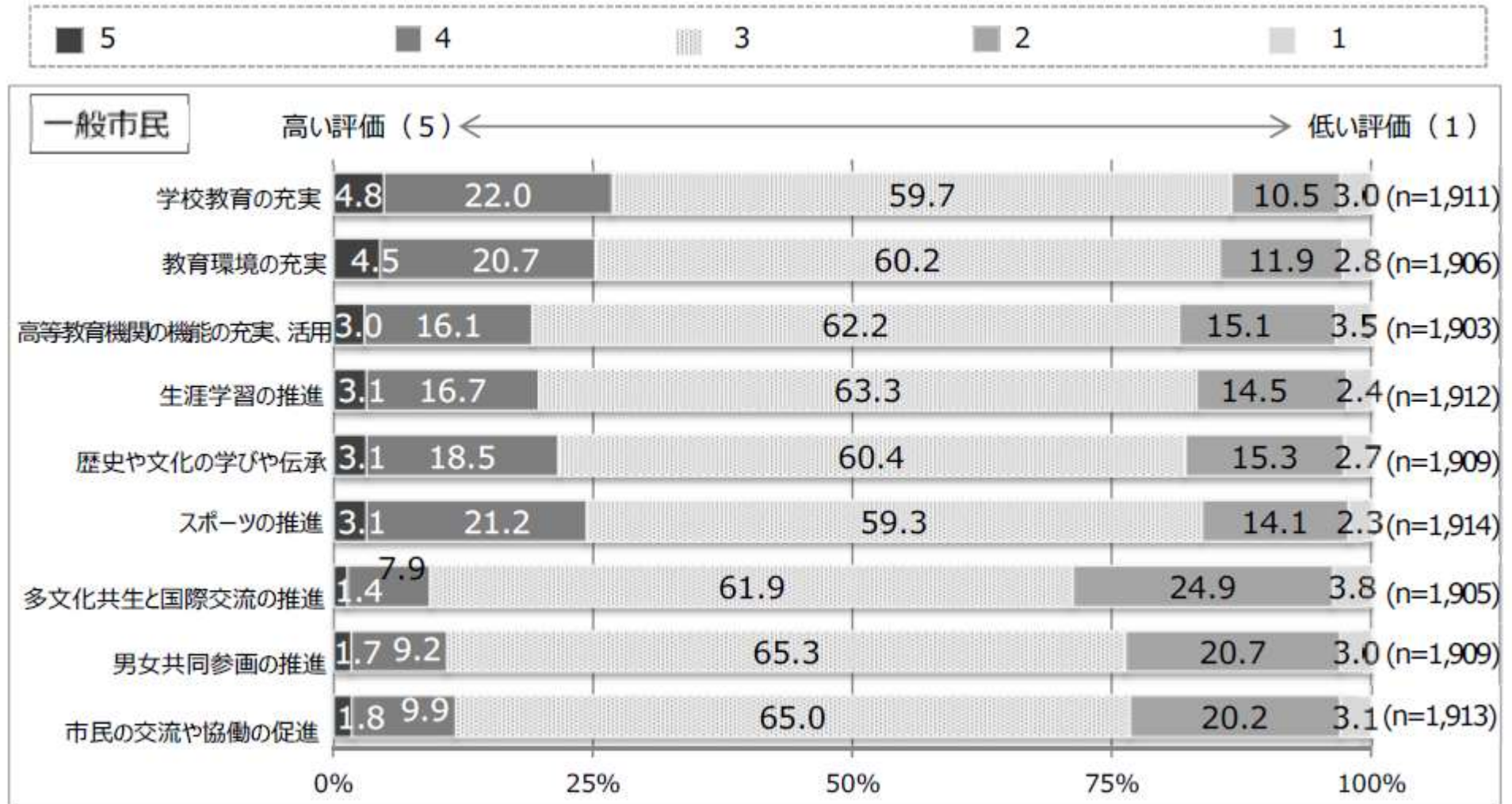
これまでの中教審の議論の経過



学校教育の充実に関する政策の満足度

- ◆ 政策の評価(満足度)として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「学校教育の充実」(26.8%)

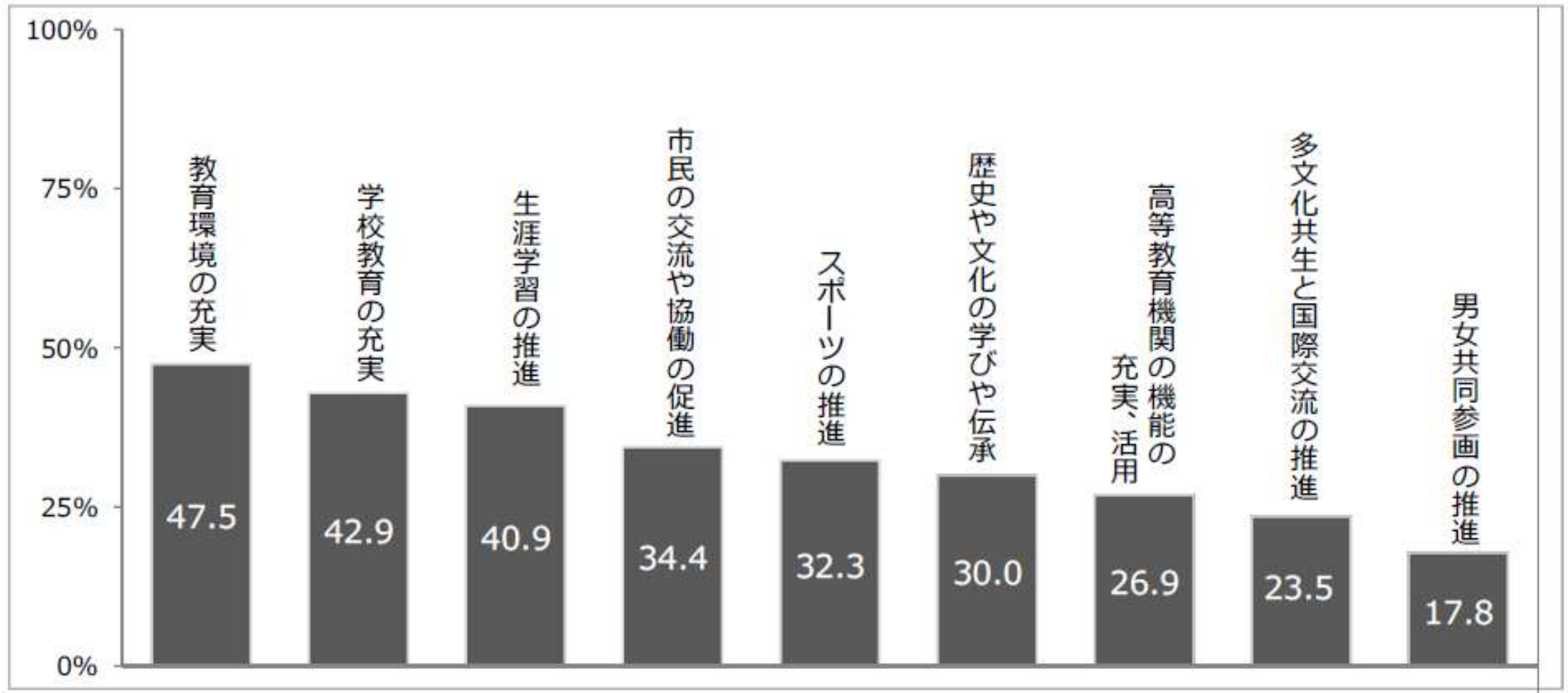
Q:「人生を楽しむ都市」づくりを進めるために位置付けられた以下の政策(9項目)の評価(満足度)をしてください。



教育環境の充実に関する政策への期待

◆優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「教育環境の充実」(47.5%)

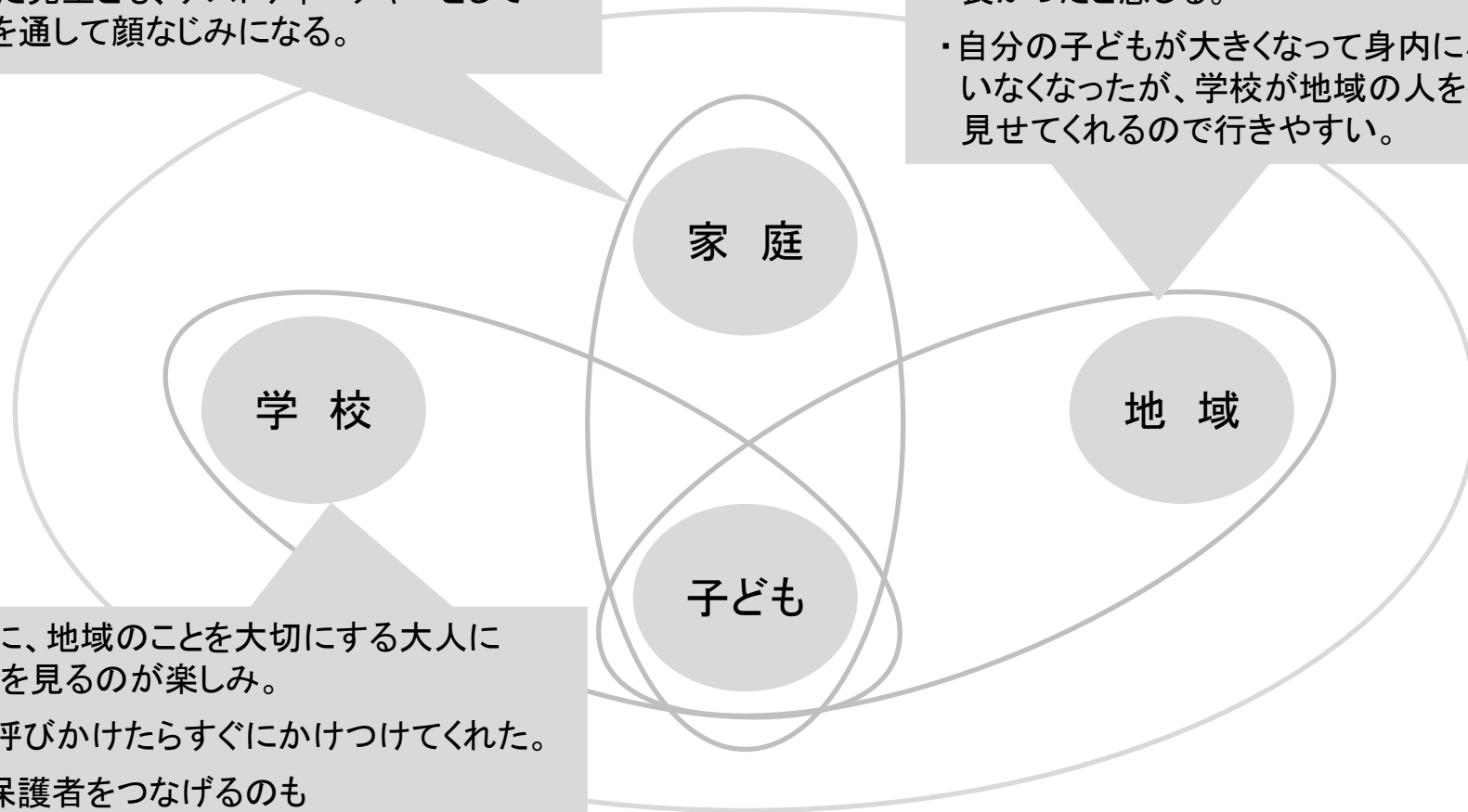
Q:「人生を楽しむ都市」づくりを進めるために位置付けられた政策(9項目)のうち優先すべき政策はどれですか。
(3つ選択)(N=1,835)



岐阜市の家庭や地域、学校の声 (ヒアリング結果から)

- ・嬉しいのは、先生や地域の人の子々な考えを聞いて、子どものことを考えていることが伝わること。
- ・学校運営協議会の委員の中にPTA元会長が入ることになっているので、仕事内容を聞きやすい。
- ・新しく赴任した先生とも、ゲストティーチャーとして打合せなどを通して顔なじみになる。

- ・最初は面倒だ、親や先生の仕事だろうと思ったが、関わってみると面白くなった。
- ・学校の行事に参加すると子ども達から元気をもらえる。
- ・外で会っても挨拶してくれる学生を見て、色々やってきて良かったと感じる。
- ・自分の子どもが大きくなって身内に小さい子どもがいなくなったが、学校が地域の人を歓迎する姿勢を見せてくれるので行きやすい。



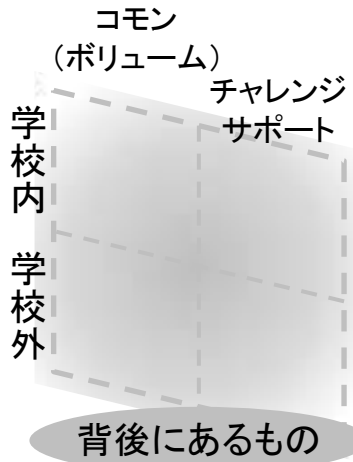
- ・何十年か先に、地域のことを大切にする大人に育ったところを見るのが楽しみ。
- ・地域の人に呼びかけたらすぐにかけてくれた。
- ・地域住民と保護者をつなげるのも学校の役割ではないかという認識が、教職員の間でいま広がりつつある。

「教師・保護者・地域住民の相互コミュニケーションに関する研究プロジェクト」

- ・岐阜聖徳学園大学教育学部 吉田准教授
- ・岐阜大学大学院教育学研究科 吉澤准教授

“つながり”の効果

- ◆ 学校が地域と連携して子どもの成長への関心を持ってもらうことが重要
- ◆ 保護者が連携する姿勢を子どもに見せることで子どもが学習する姿勢に好影響



人々の信頼関係や結びつき ～ソーシャル・キャピタル～

- ◆ 子どもと、
 - ・保護者との関わり
 - ・子ども同士の関わり
 - ・様々な立場の大人との関わり
- ◆ 保護者と、
 - ・学校との関わり
 - ・保護者同士の関わり
 - ・地域との関わり
- ◆ 地域と、
 - ・学校との関わり

◆ 岐阜市における調査研究の結果を踏まえて

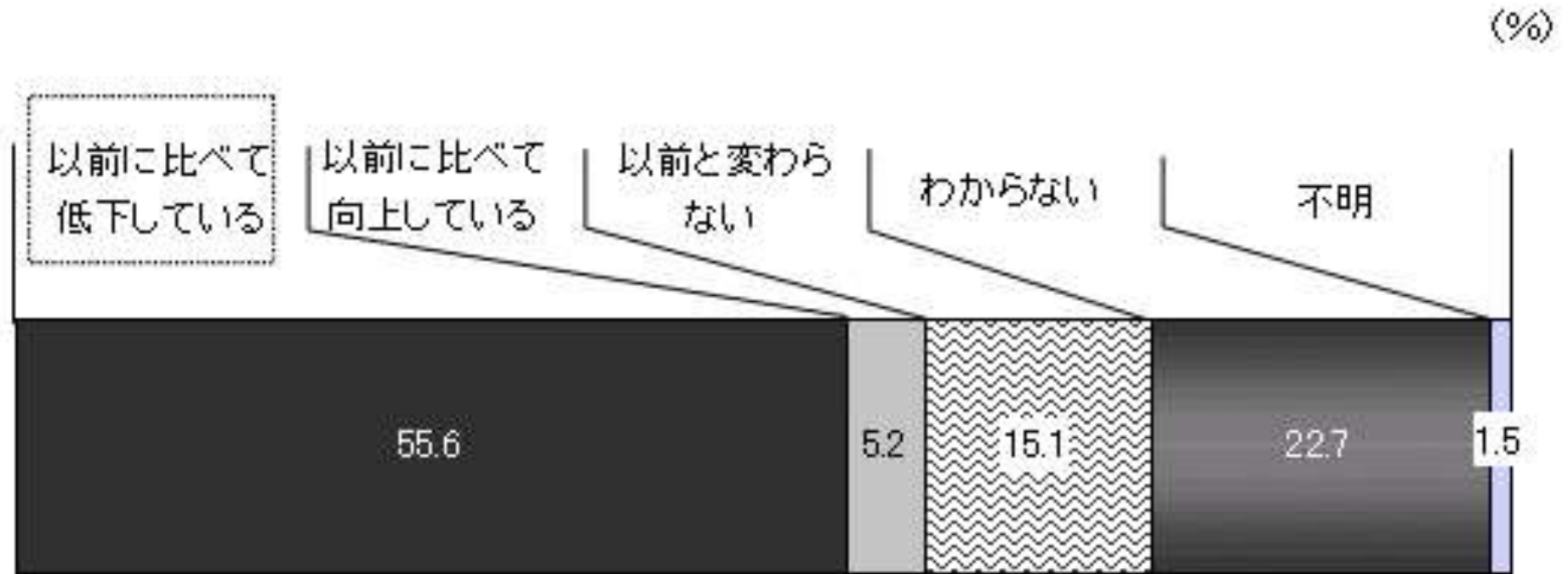
- 地域住民の持つ集合的有能感が子どもの社会性や学力に関連
- 子どもを取り囲むさまざまな他者の全般的なかかわりが、子どもの健全な成長に重要
- 子どもとの個別のかかわりだけではなく、大人どうしの連携も子どもの成長に重要
- 地域住民や保護者の連携が子どもの地域への愛着や交流を高め、そして学力や社会性、学級への適応感を向上
- コミュニティ・スクールを設置して年数の経過した岐阜市の小学校では、保護者の連携意識が高く、保護者の姿勢は子どもの学習と関連

※ 集合的有能感: みんなでより良い環境をつくることのできるという感覚

「地域の教育力」に対する認識 ①

◆ 地域の教育力：低下を感じる保護者

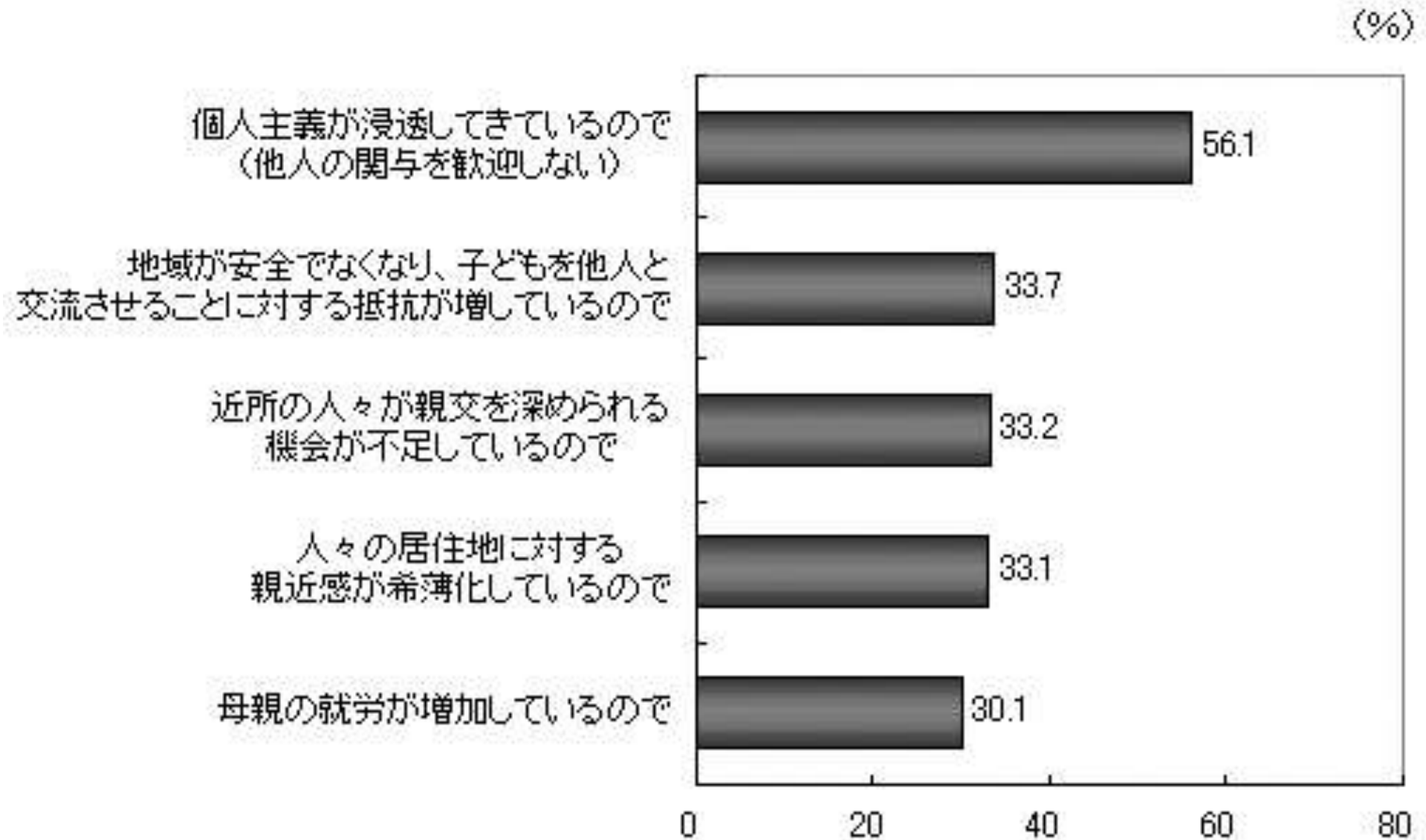
自身の子ども時代と比較した「地域の教育力」(N=2,888)



※保護者が住んでいる地域では、「地域の教育力」(地域内の子ども、保護者、一般住民が交流などを行うことにより、地域全体で子どもを育て、守る雰囲気やしぐみを生み出すこと)が、自身の子ども時代と比較してどのような状態にあると思うか、上記グラフの選択肢の中から1つを選択

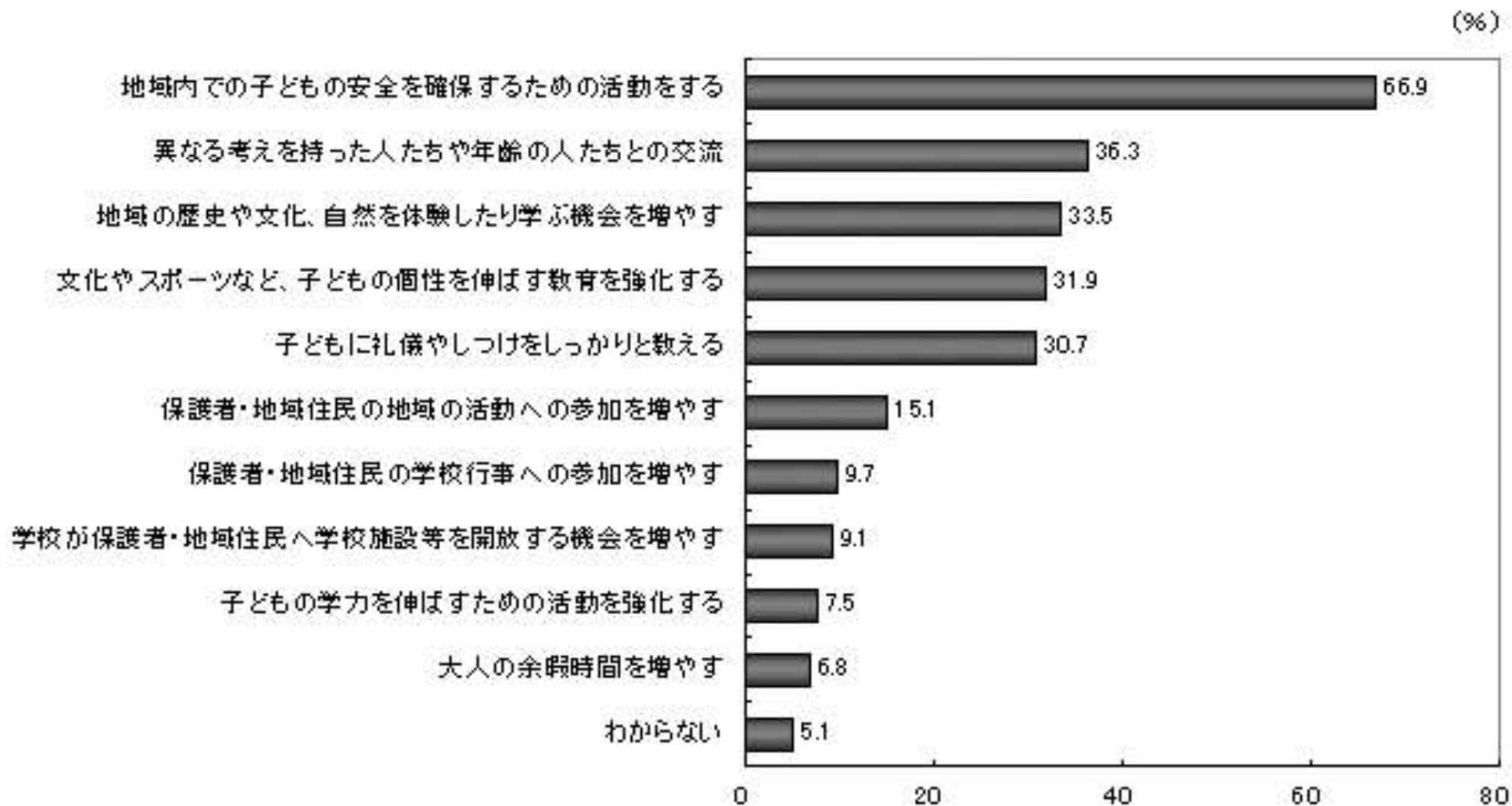
「地域の教育力」に対する認識 ②

◆「地域の教育力」が以前に比べて低下している主な要因(複数回答、上位5項目、N=1,606)



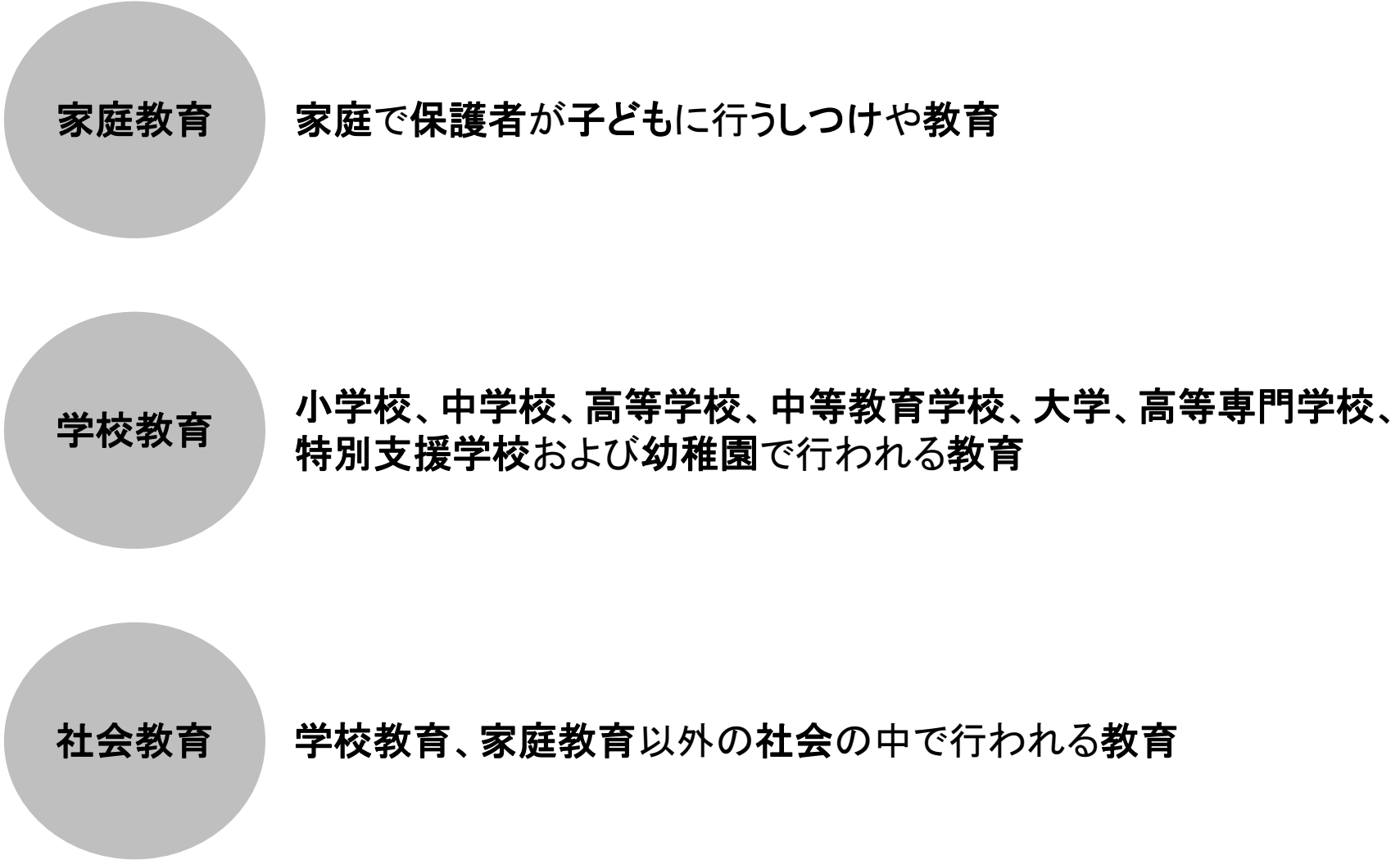
「地域の教育力」に対する認識 ③

◆子どもが健やかに育まれるために地域で力を入れるべきこと(複数回答)(N=2,888)



家庭教育、学校教育、社会教育

◆ 教育は主に以下の3つに分類できる



家庭教育

家庭で保護者が子どもに行うしつけや教育

学校教育

小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、大学、高等専門学校、特別支援学校および幼稚園で行われる教育

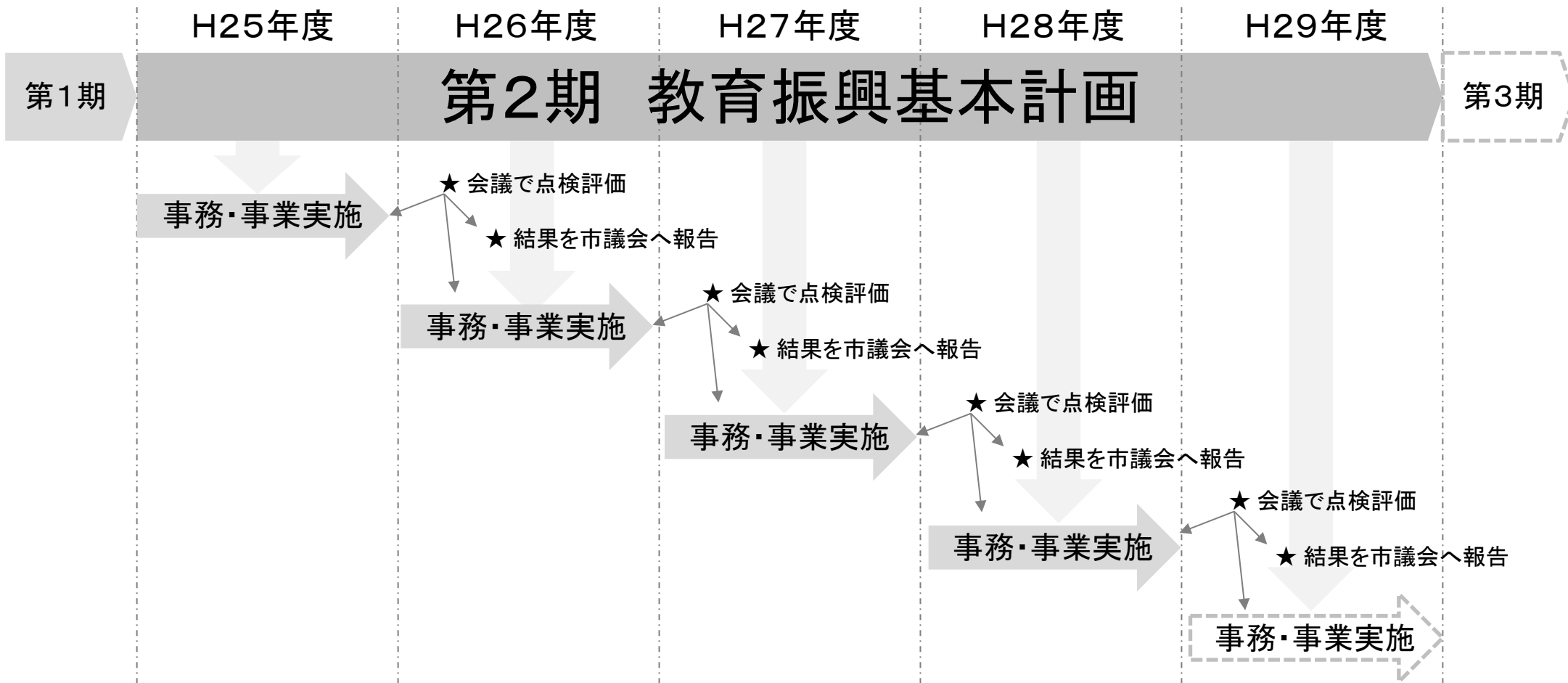
社会教育

学校教育、家庭教育以外の社会の中で行われる教育

点検評価の状況

- ※
- ◆ 毎年、外部の有識者によって構成される会議において前年度の施策の状況を点検評価している
- ◆ 結果を市議会(9月議会)へ報告するとともに施策の改善・見直しを実施している

これまでの点検評価の状況



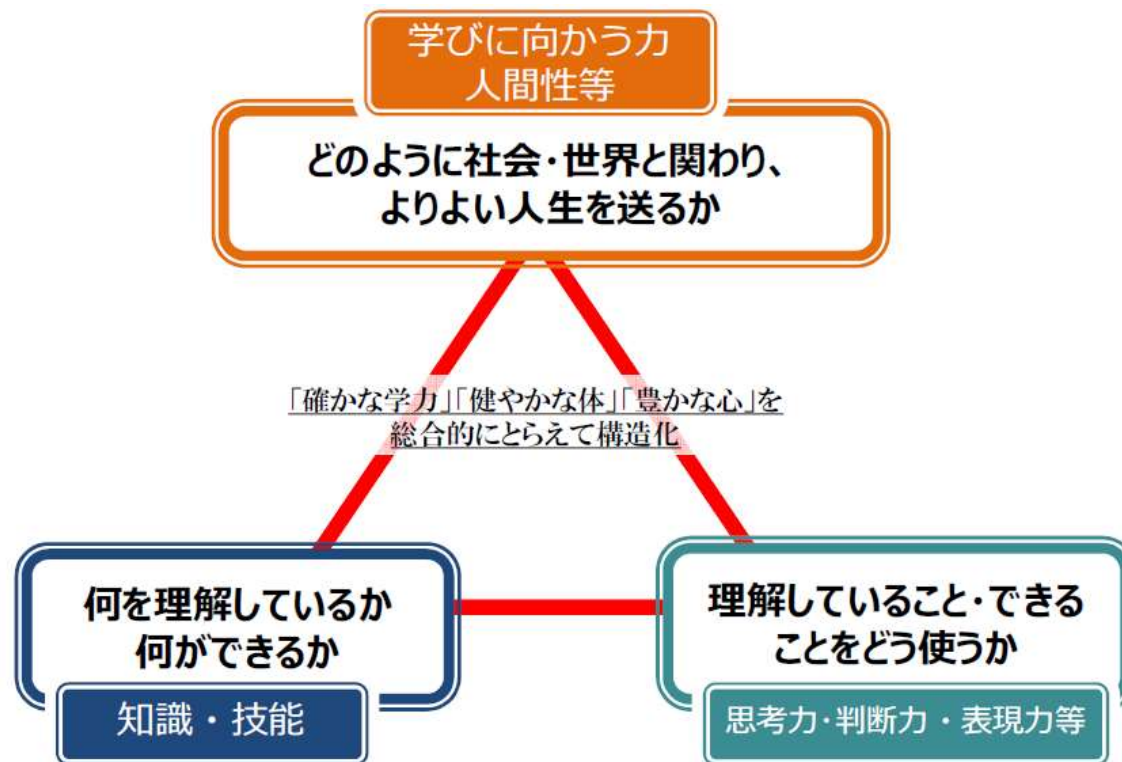
※委員3人以内で組織しており大学教員等が参画(岐阜市教育委員会事務点検評価委員会)、

次期学習指導要領：育成を目指す資質・能力の三つの柱

◆平成32年度以降実施される学習指導要領において、学校教育全体を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとされており、その際、児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとされている。

- ① 知識及び技能が習得されるようにすること
- ② 思考力、判断力、表現力等を育成すること
- ③ 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

育成を目指す資質・能力の三つの柱



小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について

プログラミング教育の必要性の背景

- ・近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。
- ・自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働き之恩恵を受けており、これらの便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかと指摘もある。

プログラミング教育とは

子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

【知識・技能】

（小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

【思考力・判断力・表現力等】

発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

【学びに向かう力・人間性等】

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成するプログラミング教育を行う単元について、各学校が適切に位置付け、実施していくことが求められる。また、プログラミング教育を実施する前提として、言語能力の育成や各教科等における思考力の育成など、全ての教育の基盤として長年重視されてきている資質・能力の育成もしっかりと図っていくことが重要である。

【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用のICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をづる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

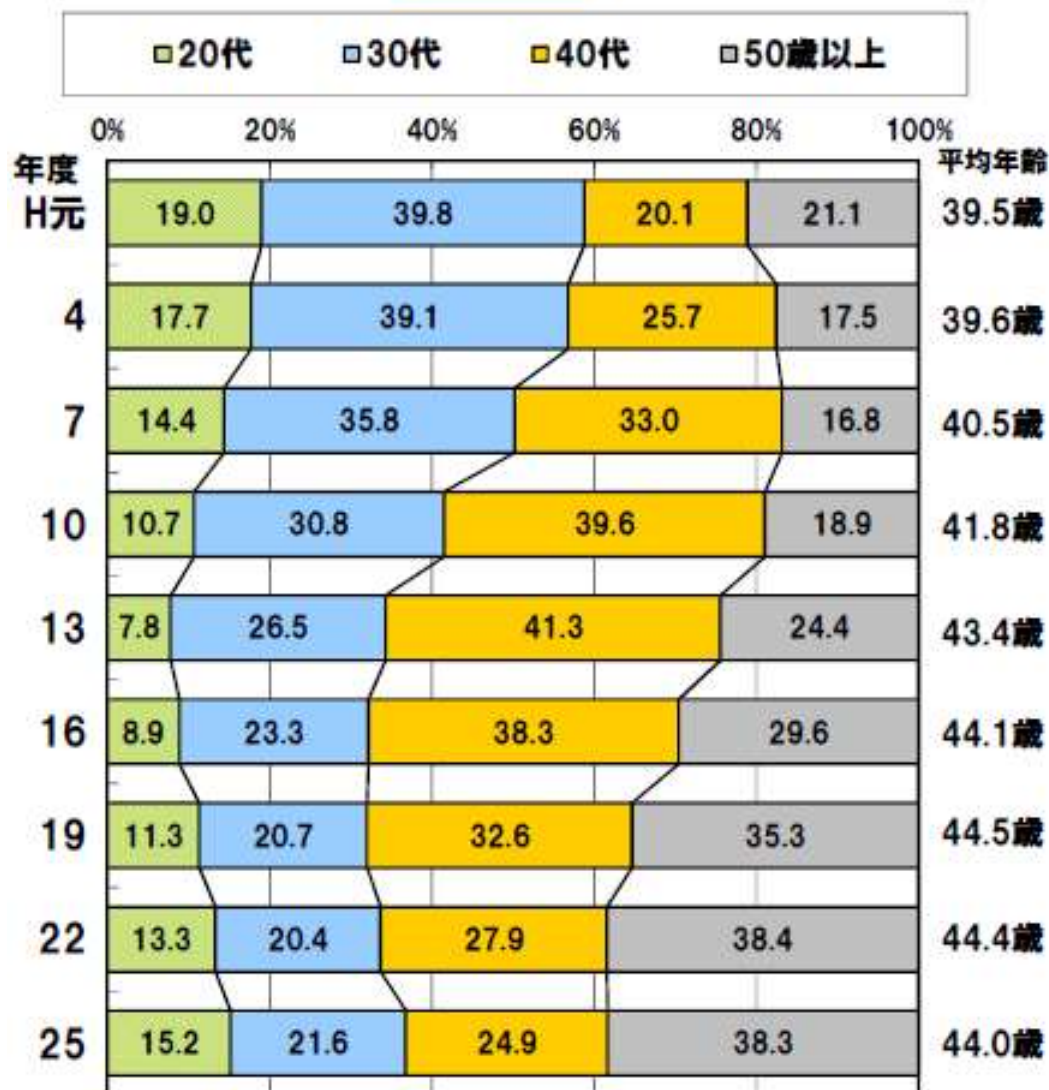
【実施のために必要な条件整備等】

- （１）ICT環境の整備
- （２）教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- （３）指導体制の充実や社会との連携・協働

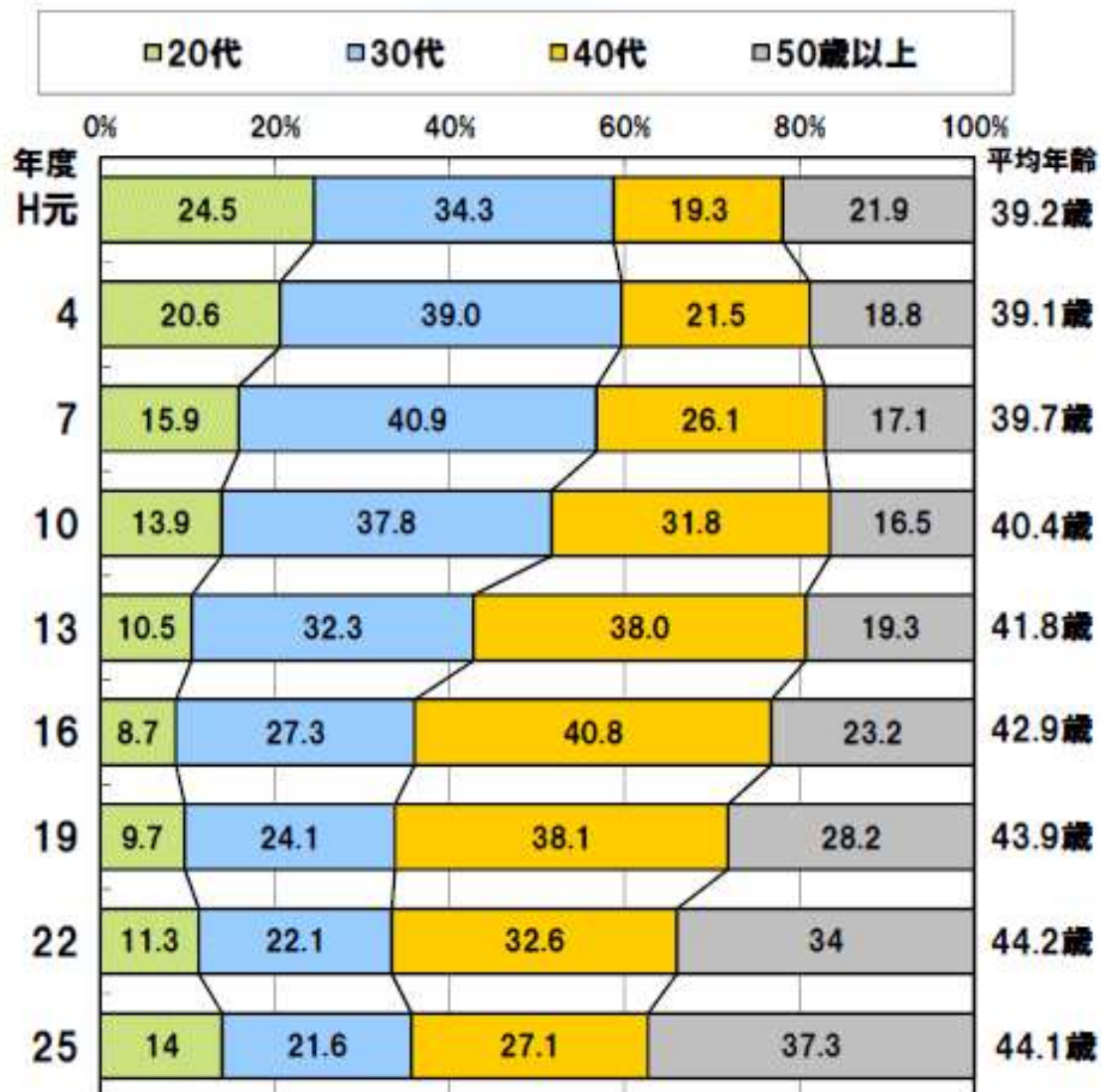
公立小・中学校の教員の年齢構成

◆ 若年層の割合が増加傾向

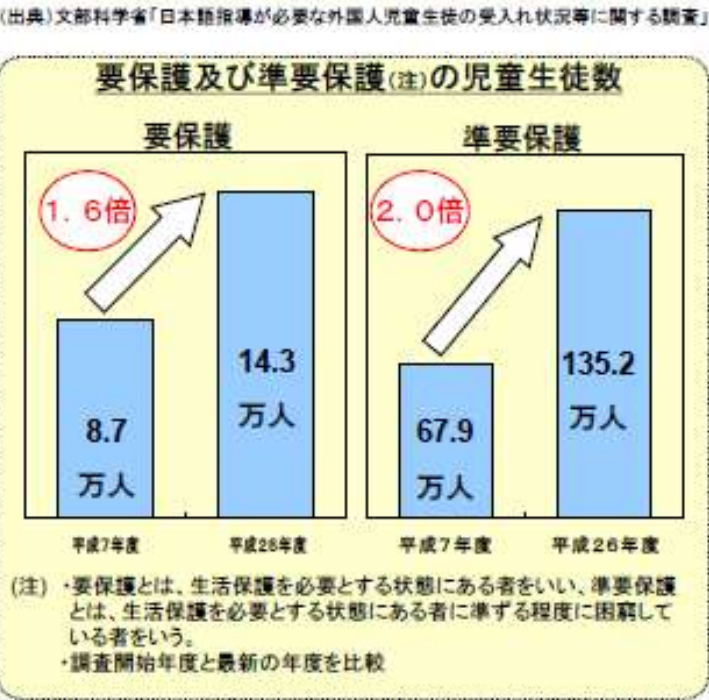
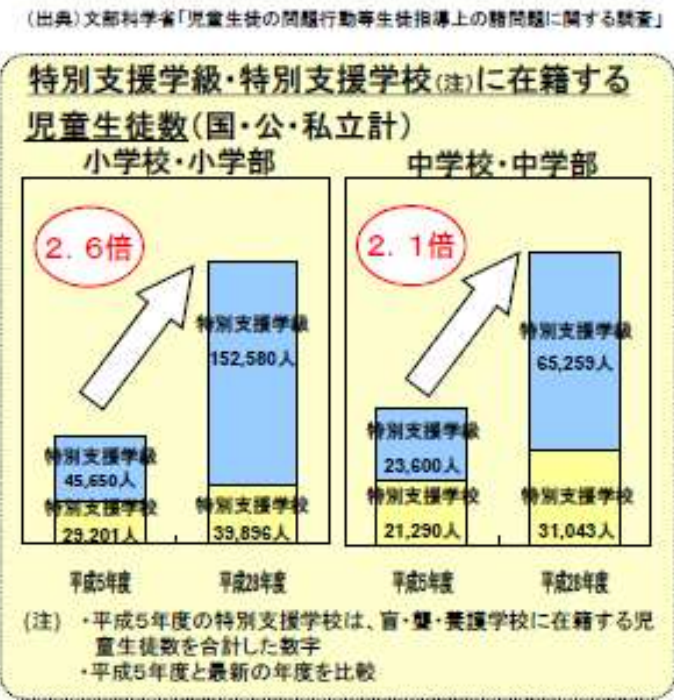
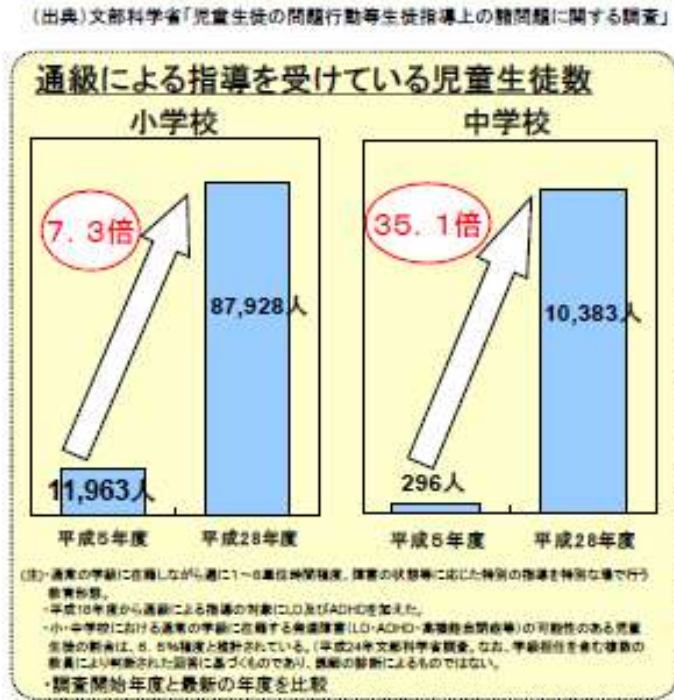
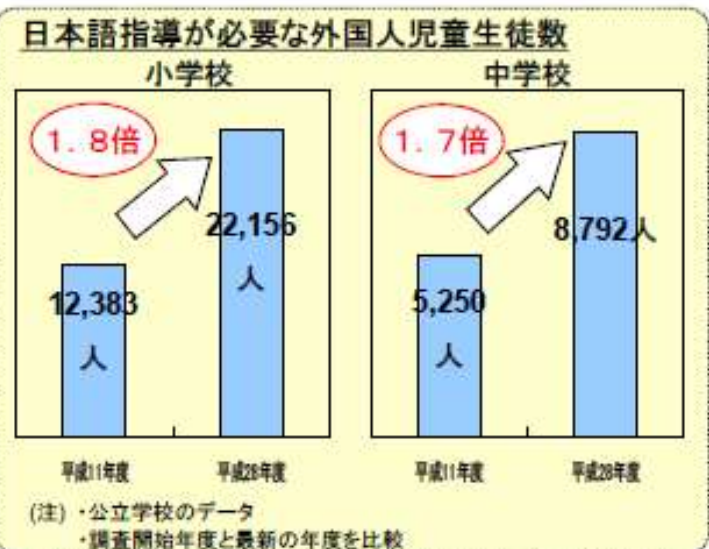
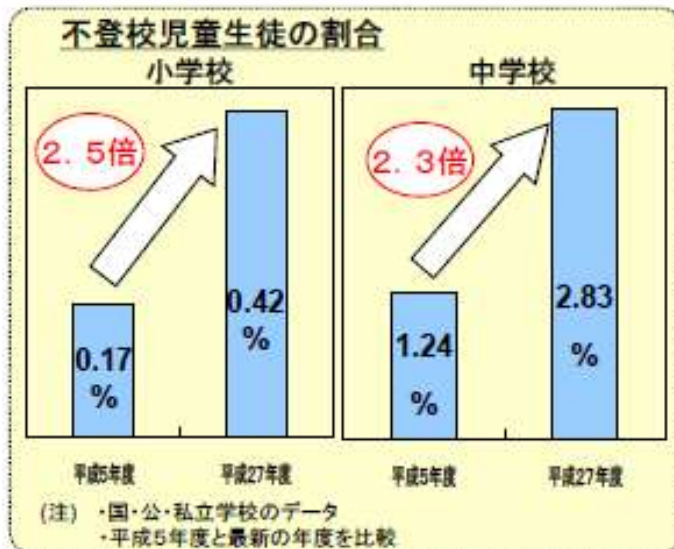
小学校



中学校



学校現場が抱える課題の状況



(出典)文部科学省「通級による指導実施状況調査」

(出典)文部科学省「学校基本調査」

(出典)文部科学省調べ